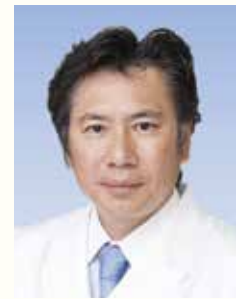


今
号
の
内
容

- 巻頭記事
- 脳動脈解離（解離性脳動脈瘤）
- 降圧剤とグレープフルーツの相互作用について
- 臨床検査部の紹介
- 救急医療功労者知事表彰を受賞しました
- 新人挨拶
- 学術活動6月～9月

☎ 当院ではWiFi 無料インターネット接続サービスがご利用いただけます。ご希望の方は受付までお問い合わせください。

数年ぶりの家族旅行で、沖縄の離島・小浜島に行ってきました。澄み切った海に色とりどりの熱帯魚と時間を忘れて過ごせたのですが、3日目の朝から突然息子が頭痛と食欲不振を訴え、夕方には高熱で寝込んでしまいました。熱中症でした。冷蔵庫の缶ビールと氷で息子の頸部と腋窩を冷やしながら、点滴があればと探したのですが、人口683人（2017年3月末現在）の島には診療所が一つしかなく、しかも夕方診療時間外であったためか電話は不通でした。ホテルからは直接119を呼ぶように指示がありましたが、



医療法人翠清会 理事長
若林伸一

聞けば船で石垣島の救急隊を呼ぶことにな

るといことで、さすがに遠慮しました。これが僻地医療の実態で、医者（私）は道具がなければほとんど何もできず、ここでは脳卒中など緊急を要する疾患は救えないのではないかと不安になりました。医療の進んだこの日本でも地域格差が大きいことを実体験し、次の旅行は救急カートの中身をトランクに入れて持ってくることを考えてしまいました。



さて、病院が広大跡地に移転して、1年が経ちました。新築した建物やデザインに対してばかりではなく、受付や看護師、リハビリスタッフの対応に対する多くの賞賛のお言葉をいただいていることが、我々職員の励みとなっています。移転前と比較すると上半期の外来患者数は3%増、救急車受入数は17%増、入院患者数は11%増と幸先の良いスタートを切ったところです。更に今年の7月からは、入院基本料を10対1から7対1とし、患者さんはよりきめ細かい看護が受けられ、看護師は業務負担が軽減される体制としました。また、同時に回復期リハビリテーション病棟も39床から52床に増床しました。患者さんや地域のニーズに合わせより良い体制に躊躇なく変化できる病院を目指して参ります。

脳動脈解離（解離性脳動脈瘤）

脳神経外科部長 相原 寛

●脳動脈解離とは？

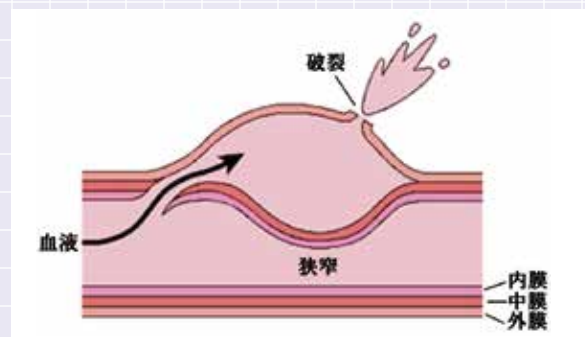
血管壁は内膜、中膜、外膜の3層で形成されます。何らかの原因で血管壁が損傷し、層がはがれて壁間に血管内の血流が侵入してひろがったものを脳動脈解離といいます。

●解離の原因

血流による血管壁への負荷や頸部の伸展などの動作の積み重ねが原因ともいわれています。頸部の動作としては急に首を回して横（後）を向いた時や、癖で首をポキポキならした時などに起こる場合もあります。

●発症様式

無症状で偶然検査にて発見される場合もありますが、多くは①頭痛、②脳梗塞、③くも膜下出血で発症します。頭痛は血管壁の層がはがれる際に生じる血管の痛みで、最も頻度が多い椎骨動脈の解離では、解離した血管と同側の首の後ろから後頭部に痛みが生じます。他のどの脳血管でも解離は生じうるため、眼の奥やこめかみなどの痛みのこともあります。突発性の強い痛みを感じることも多いですが、頭が重たい、首や肩がこったような感じのこともあります。また、解離により血管内腔が狭窄や閉塞し脳梗塞を起こしたり、薄くなった血管壁が外へ膨らんで破裂しくも膜下出血をおこすこともあります。この場合も、頭痛が先行することが特徴で、くも膜下出血や脳梗塞を発症するのは頭痛から数日以内のことが多いようです（頭痛から2週間を超えて出血を起こすことはまれです）。まれにめまいや耳鳴り、吐き気（嘔吐）が先行する場合があります。最近の椎骨脳底動脈系頭蓋内動脈解離の全国調査（脳卒中の外科2015）によると発症様式はくも膜下出血30.5%、脳梗塞33.1%、頭痛のみ36.4%と報告されています。



●診断と治療

症状と画像検査により総合的に診断します。画像診断としてはMRIやCT、脳血管造影などを行い、くも膜下出血や脳梗塞を診断するとともに、血管の狭窄や閉塞、動脈瘤様の膨隆などの異常所見から解離であることを推定しますが血管壁が解離していることを直接的に描出できない場合もあります。この場合は症状や再検査を繰り返すことにより診断します（ほとんどの場合血管の形状が刻々と変化します）。

くも膜下出血で発症した場合は早期の再出血の危険性が高く、再出血すれば死亡率が高いため、緊急手術が必要です。手術では解離した血管の閉塞を行います。血管内手術（カテーテル手術）を行うことが多くなっていますが、解離の状態や部位、血管内手術が困難な場合などでは開頭手術を行うこともあります。

出血発症ではない場合は手術を行わずに保存的治療（安静、投薬など）を行います。発症早期（特に数日間）は出血することもあるので入院して注意深く経過を見るとともに繰り返しの検査が必要です。検査結果（変化）によっては手術を検討することもあります。

降圧剤とグレープフルーツの相互作用について

薬剤部 田頭佳織

脳卒中の再発予防では、血圧のコントロールも重要な治療の一つです。
今回は、血圧を下げる降圧剤とグレープフルーツの相互作用※についてお話しします。

※相互作用：複数の薬物を併用した場合や、食物の影響で薬の効果の減弱あるいは増強、有害作用が起こること。



降圧剤には数々の種類があり、一部、グレープフルーツと飲み合わせの悪い薬があります。それは、特にカルシウム拮抗薬という種類の降圧剤です。カルシウム拮抗薬は、グレープフルーツと一緒に摂取すると薬の作用を強くしてしまう可能性があり、副作用を起こす危険性があります。メカニズムは、グレープフルーツに含まれるフラノクマリン類という成分が、小腸の代謝酵素を不可逆的に不活性化するため消化管での薬の代謝が減少し吸収が増加されることによります。ただし、フラノクマリン類の影響は薬の種類や個人差により左右されます。一緒に摂取した場合の影響は3～4日程持続するものもありますので、基本的にカルシウム拮抗薬を服用する際はグレープフルーツの摂取を避けた方がよいと言えます。

また、グレープフルーツに似た柑橘類の果物でカルシウム拮抗薬の効果に影響を及ぼすものは、ハッサク、ブンタン、夏みかん、ポンカン、いよかん等です。反対に影響を与えないものは、バレンシアオレンジ、レモン、カボス、温州みかん等です。

今回お話ししたとおり、カルシウム拮抗薬という降圧剤を服用中の方は、グレープフルーツとの飲み合わせに注意をしてください。もしも不安や不明に思うことがあれば、医師、薬剤師に是非ご相談ください。

参考文献：「治療薬マニュアル2017」、大日本住友製薬株式会社「カル・グレ」、公益社団法人日本薬学会「薬学用語解説」

臨床検査部の紹介

臨床検査部 平田明子

今年度から臨床検査部が新たに発足しました。4名の臨床検査技師が在籍しています。

主に患者さんに直に接する生理学的検査を実施しています。動脈硬化やプラークの評価、頸動脈ステント留置術の前後評価や経過観察を行う超音波検査、意識障害・けいれん・外傷などでの脳波検査、その他にも心電図検査や神経伝導検査などさまざまな項目があります。検体検査は、広島市医師会臨床検査センターと連携し電子カルテに検査結果が自動入力できるシステムを構築しています。外来では、“物忘れ程度”を確認する神経心理学的検査を行っており、このたび認定認知症領域検査技師の資格取得した技師を中心に、全員がスキルアップできるよう心がけています。



救急医療功労者知事表彰を受賞しました



平成29年9月11日翠清会梶川病院は、広島県知事より救急医療功労者として表彰されました。この表彰は、救急医療の確保に貢献した団体および個人について、その功績を称えたものです。平成28年10月移転前と比較し現在の救急車受入数は17%増と、医師、看護師や医事スタッフはじめ当院職員全員で地域の救急医療充実に尽力してまいりました。今後も地域に貢献できるよう努力を続けてまいります。

新人挨拶

4月より入職いたしました、藤本と申します。前職では、呉の総合病院で医師事務補助を務めておりました。当院の業務を通じ、患者様おひとりおひとりに寄り添い、ご希望をしっかりと受け止めなければならない医療事務の仕事の責任の大きさと難しさを改めて実感しております。これまでの経験を活かすと共に、日々新しいことを学び、成長していく所存ですので、宜しくお願い致します。

医事課 藤本美穂

本年度からリハビリ部で理学療法士としてお世話になっております。出身は山口県下松市です。

今年の目標は挑戦するための知識と技術を身につけるために研鑽することです。まだまだ仕事の内容にも広島県にも慣れておらず、わからないことばかりですが、日々精進出来ればと思っています。ご迷惑をおかけすると思いますが精一杯頑張りますのでよろしくお願い致します。

リハビリ部 岡田知佳

学術活動 6月～9月

6月24日 第102回日本神経学会中国・四国地方会
「一過性全健忘後にも膜下出血を合併し、静脈うっ滞の関与が疑われた57歳女性例」
脳神経内科医長 前谷勇太

7月6-7日 第49回日本動脈硬化学会総会・学術集会
「脳卒中と嚥下障害」 脳神経内科医長 中森正博

7月15-16日 第20回日本臨床脳神経外科学会
「脳神経専門中小病院の新規移転:Before after」 理事長・院長 若林伸一
「急性期脳梗塞患者における(発作性)心房細動の検出動向」 臨床検査部 平田明子
「回復期リハビリテーション病棟におけるうつ病の検討」 看護部 副部長 松田健司
「急性期脳卒中患者におけるベッドサイド評価としての舌圧測定に関する検討」 看護部 木村敬子
「手術準備の効率化に向けての取り組み」 看護部 高木亮己
「当院におけるcold Xe CTとDynamic Susceptibility Contrast MRIの比較検討」
放射線部 佐々木大樹
「当院における回復期リハビリテーションアウトカム実績指数に影響を及ぼす因子について」
リハビリ部 甲斐健斗
「当院における歩行自立に影響する因子について」 リハビリ部 川畑政浩
「脳卒中患者における病棟歩行の自立基準の見直しに向けて～高次脳機能と自立歩行の関係性について～」 リハビリ部 原田亮
「抗凝固薬の使用状況と薬学的管理の留意点」 薬剤部 唐下智衣
理事長・院長 若林伸一 座長/副院長・血管内治療部長 須山嘉雄 座長/
脳神経外科部長 相原寛 座長/脳神経外科医長 峯子裕輔 座長/
脳神経内科医長 中森正博 座長/放射線部 佐々木大樹 座長

7月26日 Bayer Learning Program in Suiseikai Kajikawa Hospital
「超急性期脳梗塞の治療」 脳神経内科部長 今村栄次

7月27日 hitoto広島 まなぶあそぶキャンパス
「脳に関する生活習慣病予防講演会」 栄養部 松浦昌子・福土真衣

7月27-28日 第28回全国介護老人保健施設大会
「医療的ケアに従事する介護職員と看護師の連携」 介護老人保健施設ひばり 看護部 平井幸代

9月1-2日 第26回日本脳神経血管内治療学会中国四国地方会
「急性期血行再建術において遠位塞栓を生じた最近の2症例の検討」 副院長・血管内治療部長 須山嘉雄

9月2日 第19回中四国脳卒中研究会
「肺動脈血栓による奇異性脳塞栓症を発症し、遺伝性出血性末梢血管拡張症と診断した一例」 脳神経内科医長 松島勇人

9月16-21日 XXIII World Congress of Neurology (第58回日本神経学会学術大会合同開催)
「Impact of the oral use of antithrombotic agents on outcomes in patients with intracerebral hemorrhage」 脳神経内科部長 今村栄次
「Investigation of the relationship between videofluoroscopic examination and tongue pressure using a balloon-type device in acute stroke patients」 脳神経内科医長 中森正博

9月22-24日 第7回日本認知症予防学会学術集会
「認定資格を取得して」 臨床検査部 西野真佐美

医療法人 翠清会 翠清会梶川病院

TEL : 082-249-6411 FAX : 082-244-7190
〒730-0053 広島市中区東千田町1丁目1-23
<http://www.suiseikai.jp>

《病院理念》

Patient First 「患者さん第一」
ファースト・オピニオン(First Opinion)を提示でき、
セカンド・オピニオン(Second Opinion)を求められる病院に!

《基本方針》

- 1 脳の専門病院として24時間、常に質の高い医療を提供します。
- 2 患者さんの権利を尊重します。
- 3 患者さんの安全と安心を確保し、医療事故の予防と対策に努めます。
- 4 急性期から慢性期、在宅までの地域の関連機関と連携を強化します。
- 5 翠清会の職員である誇りを持ち、プロとしての実力を高め、チーム医療に貢献します。

